

【主題名】 自他の生命について考える 内容項目 「D-(19) 生命の尊さ」

【教材名】 決断！骨髄バンク移植第一号（東京書籍 新しい道徳1）

<あらすじ> 日本初の骨髄移植によって白血病患者の命を救う話。血液の適合を告げられた一人のドナー登録者が提供を決断するまでの葛藤を描く。全国集会で患者とドナーは出会い、固い握手を交わす。

【ねらい】

内容項目の理解

生命の尊さについて、その連続性や有限性なども含めて理解し、かけがえのない生命を尊重するという道徳的価値について指導する。

児童生徒の実態把握

「いのち」は大切であるという漠然とした理解にとどまり、生命とは何か、その尊さを守るためにはどのように考えていったらよいか理解が不十分である。

本時のねらいを設定する

判断力 心情 実践意欲 態度

自他の生命を守り、尊重するためには、どのような考えが必要か話し合わせ、道徳的判断力を育てる。

【学習指導過程】

段階	主な学習活動 ○主な発問 (◎中心発問)	考え議論する道徳ポイント集
導入	1 本時の主題に価値付けを行う。 ○ 自分の命や健康を守るために心掛けていることはありますか。 2 課題をつかむ。 自他の生命を尊重する時に必要な考えは何か。	導入の工夫
展開	3 資料の範読、及び骨髄移植についての補足説明を聞く。 ○ 田中さんの足取りが重かったのはなぜでしょう？ 4 グループで自分なら提供できるかどうか話し合う。 ○ あなたなら骨髄を提供できますか？ 5 資料に戻り、考えを深める。 ◎ 手を握り合う二人はそれぞれ何を考えていたのでしょうか？	自分との関わり 問題解決的な学習
終末	6 授業を振り返り、自分との関わりで考える。 ○ 自他の生命を尊重するために大切な考えは何でしょうか？ ・最後の発問前に、「命の感謝状（手紙）」または、「命のリレーの物語（映像）」を紹介する。	終末の工夫

【板書計画】

第 ○ 回道徳

自他の生命の尊重とは？

骨髄バンクについて

- ・白血病の治療のため設立
- ・ドナーから患者へ骨髄液を移植
- ・約2万3千件実施
- ・バンク登録者は52万人
- ・移植待ち患者数約2千人

○田中さんの足取りはなぜ重かったのか？

- ・手術への不安。・家族の心配
- ・仕事を休まなければならない。

○自分なら提供できるか？

1班

- ・手術が怖いので無理。
- ・不安だが提供する。
- ・家族と相談して決める。

2班

- ・迷って決められない。
- ・家族の意見に従う。

3班

- ・針を刺すのは怖い。
- ・絶対提供したい。
- ・自分しかいないのなら。

4班

- ・誰かの命を助けたい。
- ・役に立ちたい。
- ・仕事を休むのは・・・。

5班

- ・危険を冒したくない。
- ・自分では選べない。
- ・家族だったら提供する。

自他の生命を尊重する時に必要な考えは？

- ・相手のことを考える。
- ・自分の命も大切に。
- ・勇気を持って行動すること。

※グループごとに心情円をホワイトボードに貼る。

【評価】

自他の生命を尊重するために必要な考えについて、問題解決的な学習を通して、多面的・多角的に考えようとしていたか。